

第 64 号

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 靈龜山 九島院

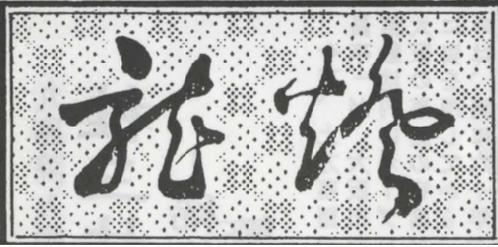
〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
Tel. 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行所

発行者

第廿五代住職

奥田 啓知 (智證)



当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

高齢者所在不明問題

父の恩は山より高し、母の恩は海よりも深し



今夏、全国各地で相次いで高齢者の所在不明問題が発覚しました。きっかけは、東京都足立区で発見されたミイラでした。生存していれば11歳になる都内最高齢の男性のミイラ遺体が発見されました。家族の話によると、男性は30年ほど前「即身成仏する」といって部屋にこもり、そのままずっとほったらかしにしていたら「ミイラ」になったということでした。

この事件をきっかけとして、全国で100歳以上の高齢者の調査を行ったところ、次々と所在不明の高齢者が見つかり、また消し忘れの戸籍も多数判明し、長崎県壱岐市では、なんと御年200歳という戸籍上は生存している超高齢者まで登場しました。

肉親とは一体、何なのでしょう。薬師寺貫主の高田好胤師は、かつて結婚式に招かれれば『父母恩重經』を常に持参して「新婚旅行中に二人で読むように」と新郎新婦にプレゼントしていたそうです。

仏教では、「四恩」といって、①父母の恩 ②衆生の恩 ③生きとし生けるものすべての生命に支えられて、私たちは生きています。④國王の恩 ⑤三宝の恩 ⑥仏宝(ほとけとう宝)・法宝(ほとけの教え、法とう宝)・僧宝(仏教者の集まりとう宝)の四つの恩を重視します。この「四恩」のトップが、『父母恩重經』の説く「父母の恩」なのです。

父母の恩は、返そうとして返せる恩ではありません。父母がどれだけ大きな恩を施してくれたかが、『父母恩重經』には書かれています。「父の恩は山よりも高し、母の恩は海よりも深し」というほど父母の恩は大きすぎて、恩返しはできないのです。そこで、お釈迦さまは恩を知れ(知恩)と言っておられます。

私たちは『父母恩重經』を読むことで、父母の恩を知ることができるのです。それがとりもなおさず、父母の恩に報いる道なのです。

足立区のように、家族が親の年金受給をする為に、高齢者を「生存」と

外部に報告し続けるのは論外ですが、家族や近所と連絡がなくなり、本当に所在不明になって生死が誰にも全く分からなくなっている場合こそ、問題は深刻です。

戸籍についても、公務員の怠慢で「生存」し続けることも問題ですが、個人情報保護と言う事で、原戸籍以前の戸籍の未開示で日本人から先祖を奪ったことも原因の一つと思います。

長寿大国・日本の核家族化の進展による高齢者の『社会的孤立』という重大な課題はありますが、今こそ『父母恩重經』の父母の恩を知ることが大事なのではないでしょうか。

父母は、恩返しを求めて恩を着せた訳ではありません。布施の気持ちで恩を施してくれたのです。今度は子供のほうから見返りを求めない布施のところで報恩すべきなのです。

波濤の夢

(龍溪禪師一代記) その五

龍溪と隠元禪師①

先に記した『龍溪和尚塔銘』にみえるように、沈潜し修行を重ね「又六年及ち慶快」を得た龍安寺塔頭卓庵の龍溪宗潜のもとに、寛永二十年(一六四三)その後隠元禪師の法弟になる独本性源とその弟子龍潭道珠や木庵性瑫の法嗣となる慧端性明(良寂道明)が参禅してきた。彼らは、後に黄檗僧となる。

翌寛永二十一年、年号が代わり正保元年(二六四四)龍溪は自坊の高槻富田の普門寺に帰住するや、高槻城主永井直時夫人徳松院が歿し、遺命で金襴衣と浄財の寄進を受け、方丈、厨房など数字を建立するなど自坊経営に邁進する。その間、慶安二年(一六四九)には、後水尾上皇の長谷寺行幸の折り、宮中の頼土、林下の詩僧の一人として漢詩一律を賦すなど健在ぶりを示している。

同五年(一六五二)九月十二日、龍溪五十一歳のとき、妙心寺住持勅請の繪旨を賜り晋山した。この繪旨は慶瑞寺に伝えられて現存している。この頃、龍溪の臨済宗教団ひいては仏教興隆という禪師の

命題に大きく影響を与える出会いがあった。

『黄檗外記』(無着道忠著)によると、隠元禪師が来朝する三年前の承應元年(一六五二)頃、以下のように伝えている。

「東叔云わく。初め京の本屋、書二、三十巻を縛め、仙寿院に來たりて云わく。是れ一処に買ひ得たり。一処に御買玉われ。禿翁一齊に之を買う。中に隠元録二巻有り。これを読んで奇と為す。その時、世間寛やかに、仙寿より龍安寺の浴室に入りて浴す。或時、浴室にて龍溪に逢いて、隠元録のことを語る。龍溪借りて見て大いに奇とする。」

龍溪が隠元禪師の存在を強く意識した出来事である。東叔古丈は禿翁妙周の弟子で著者の無着が東叔から聞いた話として『黄檗外記』に載せられている逸話である。続いて『黄檗外記』には、「後三年に隠元来朝。龍溪、禿翁大いに驚喜してまづ誰ををか長崎へつか

わし、様子をも聞くべしと云いて、笠印にまじたることあらんとて、兩人すすめて笠印和上を長崎へ下す。程なく広島島の虚樞和上、因幡の鼎宗、妙心大雄の万拙等、多くの長崎に集會す。」とある。

隠元の語録に感銘した禿翁と龍溪は隠元が来朝したことを知り大いに驚き笠印を長崎に送り、その様子を調べさせた。

黄檗文化人名辞典によると、隠元禪師は、俗姓は林氏。諱は隆琦といい隠元と號す。中国明の万曆二十年(一五九二)十一月四日に福建省福州府福清県に三人兄弟の末子として生まれた。父は、徳龍、母は龔氏である。

六歳の時、父は湖南・湖北省方面へ赴いて消息を絶った。その後家運は傾いたまま就学もままなくなつた。二十一歳、浙江省方面に父探しの旅に出たが目的を達せず、觀音の冥助にすがる為普陀山(觀音靈場)に赴いた。その時の潮音洞での体験が出家の契機となる。

一十八歳の時、母が没したので、万曆四十八年(一六一〇)黄檗山万福寺で出家。名僧知識を求めて各地を遍歴、紺鍬を受け一人前の禅僧にしてくれた密雲円悟につき、崇禎三年(一六三〇)三九歳の時、密雲に従い万福寺に戻った。

崇禎六年に密雲の跡を継いだ費隱通容に嗣法する。師匠の費隱退山のあと黄檗山万福寺山主となると、隠元の名声が轟き衆僧雲集した。費隱の師は密雲で、その法系を遡ると中峰明本さらに無準師範となり、隠元の伝える禅はまぎれもなく正統の臨済宗である。順治三年(一六四六)黄檗山に再住同十一年(承應三年、一六五四)隠元六十三歳の時、長崎興福寺住持の帰化僧・逸然性融の度重なる招請に遂に応諾した。

東渡に反対する衆俗に、三年たてば帰国すると約束して、獨言性聞・慧林性機・大眉性善など三十名と共に、鄭成功が準備した国性爺船で長崎に入港した(獅林老和尚広録)。

龍溪が龍安寺の浴室で、禅友の禿翁から隠元語録を借覧し、隠元禪師の存在を強く意識した三年後のことである。

(つづく)



隠元禪師

当院は、阪神ならば線で、ならばから7分です。

虹の橋



『千の風になつて』は、大切な人を亡くしたとき、悲しみをこえて生きる勇気を与えてくれました。ペットを介した人を慰め勇気付けける「虹の橋」という短編の詩を紹介します。原文は英語ですが、歌詞、原作者不詳を紹く世界での共感を保持した人々が、自国語に翻訳し、ネマッ

第一部 虹の橋

天国のほんの少し手前に「虹の橋」と呼ばれるところがあります。この地上にいる誰かと愛し合っていた動物は、死ぬとそこへ行くのです。そこには草原や丘があり、彼らはみんな走り回って遊ぶのです。食べ物も水もたっぷりあって、お日さまはふりそそぎみんな暖かくて幸せなのです。

病気だった子もみんな元気を取り戻し、傷ついていたり不自由なからだになつていたり子も、元のからだを取り戻すのです。まるで過ぎた日の夢のように。みんな幸せで満ち足りているけれどひとだけ不満があるのです。それは自分にとって特別な誰かさん、残してきてしまった誰かさんがここにいない寂しさのこと…。

動物たちは、みんな一緒に走り回って遊んでいます。でも、ある日：その中の1匹が突然立ち

止まり、遠くを見つめます。その瞳はきらきら輝き、からだは喜びに震えはじめます。

突然その子はみんなから離れ、緑の草の上を走りはじめます。遠く、それは早く、飛ぶように。あなたを見つけたのです。あなたとあなたの友は、再会の喜びに固く抱き合います。そしてもう二度と離れたりはしないのです。

幸せのキスがあなたの顔にふりそそぎ、あなたの両手は愛する友を優しく愛撫します。そしてあなたは、信頼にあふれる友の瞳をもう一度のぞき込むのです。あなたの人生から長い間失われていたけれど、その心は一日も消えたことはなかったその瞳を。

それからあなたは「虹の橋」を渡っていくのです。



第二部 虹の橋にて



けれど、動物たちの中には、様子の違う子もいます。打ちのめされ、飢え、苦しみ、誰にも愛されることのない子たちです。仲間たちが1匹また1匹と、それぞれの特別な誰かさんと再会し、橋を渡っていくのを、うらやましげに眺めているのを、この子たちには、特別な誰かさなどいらないのです。地上にいたの間、そんな人は現れなかったのです。

でもある日、彼らが遊んでいると、橋へと続く道の傍らに、誰かが立っているのに気づきます。その人は、そこに練り広げられる再会を、うらやましげに眺めているのです。生きていた間、彼は動物と暮らしたことがありませんでした。そして彼は、打ちのめされ、飢え、苦しみ、誰にも愛されなかったのです。

ぽつんとたたずむ彼に、愛されたことのない動物が近づいていきます。どうして彼はひとりぼっちなんだろうと、不思議に思っ

そうして、愛されたことのない者同士が近づくと、そこに奇跡が生まれるのです。そう、彼らは一緒になるべく生きて生まれたのでした。地上では巡りあうことができなかった、特別な誰かさんと、その愛する友として。

今ついに、この「虹の橋」のたもとで、ふたつの魂は出会い、苦痛も悲しみも消えて、友は一緒になるのです。

彼らは共に「虹の橋」を渡って行き、二度と別れることはないのです。

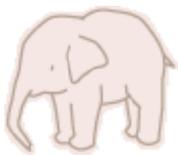
第三部 雨降り地区



こんな風に、幸せと愛の奇跡に満ちている、「虹の橋」の入り口に、「雨降り地区」と呼ばれる場所があります。そこではいつもシトシト冷たい雨が降り、動物達は寒さに震え、悲しみに打ちひしがれています。そう、ここに降る雨は、残して来てしまった誰かさん、特別な誰かさんの流す涙なのです。

大抵の子は半年もしないうちに、暖かい日差しの中に駆け出して、仲間と戯れ、遊び、楽しく暮らす事ができます。ほんの少しの寂しさと、物足りなさを感じながらも…。

でも、1年経っても2年経っても、ずっと「雨降り地区」から出て行かない子達もいるのです。地上に残して来てしまった、特別な誰かさんがずっと悲しんでいるので、とてもじゃないけれど、みんなと楽しく遊ぶ気になれないのです。地上に残して来た誰かさんと同じ辛い想いをして、同じ悲しみに凍えているのです。

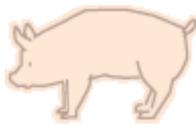


死は全てを奪い去ってしまっても、心にはありません。同じ時を過ごし、同じ楽しみを分かち合い、愛し合った記憶は、あなたの心から、永遠に消え去る事はないのです。地上にいる特別な誰かさん達の、幸せと愛に満ちた想い出こそが、「虹の橋」を創りあげているのです。

ですからどうか、別れの悲しみだけに囚われないでください。彼らはあなたを幸せにする為に、

神様からつかわれたのです。そして、何よりも大事な事を、伝えにやってきました。

命の儚さと愛しさを。東の間の温もりを感じる、慈悲の心の尊さを。その短い生涯の全てを以って、教えてくれるのです。癒える事のない悲しみだけを、残しに来るではありません。



思い出してください。動物達が残して行ってくれた、形にも、言葉にもできない、様々な宝物を。それでも悲しくなったら、目を閉じてみてください。「虹の橋」にいる、彼らの姿が見えるはずですよ。

信じる心のその中に、必ずその場所はあるのですから…。



ワンちゃん

ボランティア

九島院は盲導犬育成の支援を行っています。盲導犬のボランティアをしませんか？日本ライトハウス盲導犬訓練所では左記のボランティアを募集しています。

○パピーウォーカー

盲導犬の候補となる子犬を生後2ヶ月頃から1歳までご家庭で預かっていただくボランティアです。家の中の基本的なしつけはお願ひしますが、特別な訓練をしていただく必要はありません。元気な子犬と素敵な一年を過ごしませんか。

○キャリアチェンジ

盲導犬になれなかった子犬をご家庭のペットとして引き取りませんか？彼らと過ごすワンダフルライフが待っているかも…。

○引退犬ボランティア

引退した盲導犬を引き取ってくださるご家庭を探しています。人のために働いてくれた犬たちが、最後まで温かいご家庭で見守られるのがライトハウスの願いです。

詳細は、日本ライトハウス盲導犬訓練所までお問い合わせを。南河内郡千早赤阪村東阪一〇二

TEL 0721-72-0914

永代供養墓

(大亀地藏尊)

お墓を建ててもいずれば無縁になるから、とのお考えの方の相談を受けてきた永代供養合祀墓です。

- 継承者がいなくても安心
- 無縁になる心配がない
- お寺が続く限り供養される
- 永代位牌が位牌堂に祀れる
- 彼岸・お盆には大勢の僧侶での回向がなされる
- ご遺骨は大亀地藏尊の蓮台下で土に還るように埋葬される

- 永代供養だけの方も大丈夫
 - 生前に依頼もできる
 - 維持管理料は不要
 - 永代志納金 一霊三十万円
 - 永代位牌は二種類
 - 宗旨・宗派は問いません
 - お墓を整理して合祀される方もおられます
- ◎新規境内墓地(西区で当院だけでも募集しています) お問い合わせ下さい。



詳しくは、当院ホームページをご覧ください。→<http://www.kyutouin.or.jp>

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで一直線！



檀信徒の皆さまへ

第十六回 修養会 報告



開催日 十一月三日(祝)
天気 晴れ 参加者三十七名

若干の肌寒さがありましたが、素晴らしい秋空の下、奈良県宇陀市の黄檗宗寺院 蓮昇寺の拝塔、若住職の法話、奥香落山荘での食事とお風呂、曾爾高原のススキ。秋を満喫できました。渋滞に巻き込まれることもなく、予定よりも早く帰れました。無事に修養会を終えられたことを感謝いたします。来年は未定ですが、ご参加の程、心よりお待ちしております。ありがとうございます。(副住職)

喪中につき新年のご挨拶を

失礼させていただきます

平素は何かと御心配りに預かり有り難く厚く御礼申し上げます。本年五月一日、先代住職弘忠和尚の妻 愷子(やすこ)が八十五歳にて永眠いたしました。ここに本年中に賜りましたご法愛ご助援を深謝いたし、紙面を通じて、一筆ご挨拶申し上げます。来る年も旧に倍してご厚情下さるよう伏して懇願申し上げます。

平成二十二年十一月

黄檗宗 靈龜山 九島院 第二十五世

奥田 啓知

九拜

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで一直線!

行事報告

地藏盆子ども会

8/22

当院周辺の地域のお子さんや、お檀家さんのお孫さんたち総勢20名の子どもたちが参加してくれました。人形劇、スーパードウルすくいなどで楽しんでくれました。

来年も8月22日に開催します。

写経会

9/25

秋彼岸中の土曜日に写経会を行いました。11名のご参加をいただきました。まず、写経の説明をし、参加者全員で読経。その後、写経に臨んでいただきました。次回は、3月26日に開催します。

お寺でヨガ

10/3

初開催です。雨の中、26名の参加でした。半数以上が当院に初めて来てくれた人です。



行事予定

12/31

坐禅と除夜の鐘
毎年の恒例行事です。参加自由です。

1/21

『禅(体験坐禅)』
主催：NPO 法人大阪府高齢者大学校
高齢者大学のゼミナール科の課外授業の一環で当院にて授業を行います。ご興味ある方は、聴講できますので、当院まで申出下さい。

2/12

写経と精進料理の夕べ
主催：大阪市仏教青年会
四天王寺客殿を利用したの写経会です。参加費三千元。

4月 花まつりヨガ(予定)
詳細は、次号にて。

平成23年 年忌早見表

年 忌 早 見 表			
年 忌	寂年	年 忌	寂年
1周年	平成22年	17回忌	平成7年
3回忌	平成21年	25回忌	昭和62年
7回忌	平成17年	33回忌	昭和54年
13回忌	平成11年	50回忌	昭和37年

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

編集後記

▼チリ鉱山落盤事故では、作業員33名が地下70メートルの避難所に閉じ込められました。絶望のため、事故当初4日間は3グループに分かれて互いに抗争し無政府状態だったそうです。

▼救出の探査ドリルにつけた「全員無事」のメモにより生存が判明し、救出作業が始ると、生還の希望が生まれ選ばれた、リーダーの下

で秩序正しく協調しあい、「奇蹟の救出」が実現しました。一筋の希望が生きる活力になり、絶望の淵から救ってくれたのです。

▼「ペットロス」という病気があります。ペットを病気や事故で失い、飼い主が虚脱感や自己嫌悪に苛まれる心理状態のことを言います。

▼我が家の引退犬プーマをなくした当初は、まさに「ペットロス」でした。翌日の法要で読経していると、お経が涙声になり大変でした。施主のご主人が「うちの婆ちゃんのために泣いてくれてありがとう」といわれて困惑しま

した。

▼そんな父親を見かねた娘の一言で何とか立ち直ることができました。「プーマはペットと違う。盲導犬やつたんやから、プーマのためにも後輩の引退犬を世話しないかん。」と。

▼小納も新年には還暦を迎えます。年齢的にもあと一頭ぐらいしか引退犬のお世話ができません。

▼新たな希望をいただき、妻とともに引退犬ボランティアに励もうと決意している今日この頃です。

● さようなら『引退犬・プーマ』

とうとうその時がやって来ました。10月14日午後5時30分、引退犬プーマが亡くなりました。我が家にやって来て6年2ヶ月。数々の楽しい思い出を残して去っていきました。享年9歳2ヶ月。

昨年10月30日、足先をよくなめるので、左後ろ足の第二指爪の根元にごく小さな出来物を見つけました。かかりつけの動物病院での診察の結果、メラノマ(悪性黒色腫)と判明しました。この病気、特に爪もとに出来るモノは悪質で、発見した段階で肺に転移している可能性が大きいとのことでした。

左足切除と告げられましたが、その指と膝のリハビリ節切除の手術を受けました。生検で2カ所からはガン細胞が見つからず、手術は完璧との報告でした。家内はガンに勝ったと喜びました。

念のため抗ガン剤治療を始めたところ、11月20日レントゲン検査で6mmのガン細胞が肺に見つかったのです。肺のガン細胞は、10回の抗がん剤治療で抑えてきたのですが、やはり数・大きさ共に増殖してきました。7月24日、これ以上の抗がん剤治療は無理ということで、サプリメントとダメージの少ない治療薬を飲むこととなりましたが、夏を越えられるかということでした。

くよくよしない明るい性格なのか、普段どおりのプーマで食欲は衰えず、我が家の先輩犬2匹と楽しく日々を送ってきました。咳が出たら2週間と言われていたので、9月10日に咳をしだしたので覚悟はできていたのですが…。

その早朝4時、キャンキャンと苦しそうな2声。ミチアゲックスのケイちゃんに驚いて駆けつけ、心配そうに吠えました。さすがに朝の散歩は動けず、酸素導入器の助けを得ても、プーマの呼吸は荒く、夕方5時頃からはひどくなり夕方5時25分とうとう、息が止まってしまいました。「プーちゃん、6年間本当にありがとう」と大声で呼びかけたところ、プーマは最後の力を振り絞って、バタバタと尻尾を振ってくれました。まるで、『ありがとう』と言っているかのように…。



「プーちゃん、本当にありがとう！！」

お知らせ

◎のほり奉納の募集

1 旗 金 2 千 円

『南無観世音菩薩のほり』を入れ替えます。1年間境内に掲げます。昨年同様、お施主さんを募集いたします。為書きと施主名を墨書します。

ご希望の方は、寺務所まで、お声をかけてください。

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで一直線！

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。